

① シカ糞 (2016年7月2日 日光白根山)



しつこく日光白根に行ってきた。

日光白根は、栃木県からは日光湯元から登るルートがあり、群馬県からは丸沼光源からスキー場の真上をロープウェーで登るルートがある。そう、谷川岳と同じだ。今回は谷川岳のロープウェーは動いていなかった。もっと言えばその前年、那須岳のロープウェーもあったが、私は乗らなかった。この人馬鹿なんじゃないかなと思っている人もいると思うし、もちろんそれは意見として受け入れるべきだが、馬鹿という方が馬鹿だ。今回は目的がある。スキー場というのは、シカの餌場だ。シカがいるに違いない。

そしてこの写真の、ツヤツヤうんこである。こんな立派な融合糞が、スキー場を埋め尽くす。これだけ糞があればシカの一頭や二頭や十頭や百頭行き会うだろう～と登っていたところ、森の方で枯れ木を折る音がした。見れば、お尻を真っ白にして逃げていくシカ。そういえば、私は地球上で最悪の生物の一員だった。



② マタタビ (2016年7月2日 群馬県 日光白根山)



山を歩くなら森の袖（林縁）をよく見て欲しい。5月ぐらいはフジの花がブドウのように鈴生りになっている。そして、6月以降はこのように緑の中に奇妙な白葉があるかもしれない。ネコを惑わすマタタビである。

この植物の特徴は何の意味があるか知らないが、葉が白くなることである。緑の葉も多くある。しかし、白くなる葉がある。実はキウイの仲間なのでおいしい。しかし、同じキウイの仲間のサルナシもこのように一部の葉を白くすることはない。

とても変な植物である。白くなることに理由を求めてもいい。求めなくてもいい。でも、林縁で白い葉を見つけたなら、それがマタタビなのだと思ってくれればいい。もしあなたが愛猫家なのであれば、葉を少しちぎって持って帰り、ネコにかがせてやってもいい。

マタタビがネコを酩酊させる理由はよくわからないが、私はビールを飲むと楽しい。そういうことかもしれない。

③ 何らかの葉巻 (2016年7月2日 日光白根山)



学生の頃、昆虫学の大家と言われる先生がいらっしやってシャーレにいたオトシブミの揺り籠を見せてくださったことがある。それはとても綺麗な円筒形をしていた。

今回発見したのは円筒というよりは葉巻である。側面もただ丸めただけに見える。ハマキガだろうかチョッキリだろうか。

繭を作ったり、葉巻を作ったり、揺り籠を作ったりと、彼らは神秘的な性質を持っている。

私がもう30年も気になっていることは、彼らのサナギの中身である。いくら調べても納得のいく説明が出てこない。サナギの中で彼らはドロドロに溶けているらしい。そしてサナギという鋳型で形作られ…ある日、成虫になって出てくる。まったく納得がいかない。どんな本を調べてもそのあたりの事情ははぐらかされている。

きつとなにか、重大な秘密があるに違いない。昆虫は神秘的だ。





④ コマクサ (2016年7月2日 日光白根山)



すぐに誰かに答えを求める人もいれば、それに答えることで悦に入る人もいる。私はわからなければ自分で調べる。また、答えを求められたら、それを調べてみてはどうかと薦める。

私が今の今まででわかったことは、世の中わからないことの方が多ということだ。百科事典に知りたいことの百は書いてあるけれども千は書いていない。

マタタビの葉が白くなるのはなぜか、昆虫が葉をクルクル丸めて卵を産み付けたりすることをどうして教わったのか、サナギの中で何が起こっているのか。謎である。コマクサのこの不思議な形も、どうしてもと言われても困る。また、私は色覚異常なので、コマクサが砂礫地に生えていても、周りの灰色と薄いピンク(?)が融合するので、また、この花を愛でる気は起きない。みょうちきりんな花だと思っている。この花がこんな形なもの、私が色覚異常なもの、意味があるかどうか、まったくわからないことだ。

自然を見る時に、そういう不思議を感じてほしい。



⑤ 何らかの筒 (2016年7月2日 日光白根山)



そしてもう一度出会った何者かの仕事の痕。(割と今更ですが、この記事は山を歩きながら気の向くままに写真を撮って、基本的には出会った順に写真を紹介しています)

今度はオトシブミのようだ。とはいえオトシブミも種数が多いので、そのどれかまではわからない。

オトシブミを漢字で書けば「落とし文」。辞典を引くと、公然とは言えないようなことを文に書いて、相手の居所の近くに落としたものが名前の由来とか。

それでは怪文書ではないか。

そう思ってさらに調べれば、確かに政治批判などを書いて落としていたものを落とし文と呼んだらしい。私はてっきり、下駄箱のラブレターのようなメルヘンなものかと思っていた。あるいは平安時代に貴族が意中の女性の牛車の前に先回りして、道に落としておいて捨わせるような、そういう風流(古文を読むにつけて平安貴族はストーカー的な性質を持っていると確信している)なもの勝手に思っていた。

まあ、中から何が出てくるかわからないという点では怪文書に近いものがあるかもしれないが、私の中ではオトシブミは風流なものだということにしておきたい。